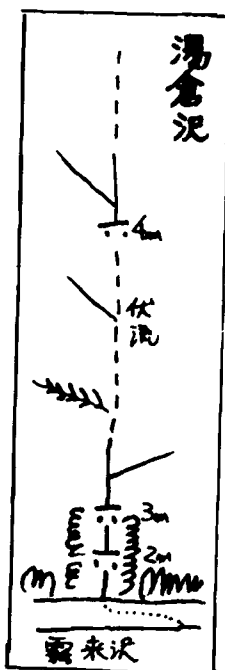


った。さらに登ると、左側から一枚岩の岩盤を伝って水が流れ込んできている。手を入れて見ると生温く、昨日降った雨水であることがわかる。その後も小沢が合流してくるが、雨水によるものであろう。

急な沢床を登りつめると、落差のある滝が連続して現われるが、水量も少なく足場もあり、全て直登。だいぶ高度をかせいだようだ。

上部にめざす尾根が見える。地図上から、996mのピークから北東にのびる尾根と思われる。根曲がり竹(チシマザサ)につかまりながら、比較的楽なヤブを越え、10時45分、大石田沢との分水嶺に立ち、遡行を終える。(記・)

[タイム] 出合(8:00)→遡行終了(10:45)



### 霧来沢支流湯倉沢 1992年8月23日

霧来沢の底は玉石。胸までの波渉と泳ぎを重ねて、湯倉沢の出合に着く。泳ぎの正味は50mくらいだろう。メジロ(アブの一種)がものすごく、泳いでいても頭に群がってくる。

湯倉沢は、出合近くに小滝2本をかけただけで、すぐ水が涸れる。ヤブもかぶさってきたので遡行を打ち切ろうと思ったら、上部から水音が聞こえてくる。様子を見ることにして、遡行を再開する。

上部には4mほどの斜瀑が現われるが、またすぐ水が涸れてしまう。ヨモギなどのヤブがかぶさってきたこともあり、遡行終了とする。

[タイム] 湯倉沢出合(8:15)→遡行終了(8:50)

### 幽ノ沢右俣 1992年8月22日

車を止めるとメジロ(アブの一種)が群がる。追い払いたたき殺しながら出発。女滝までは登山道を利用する。沢からは男滝の上部が望めた。男滝は、中ほどに